



令和6年11月22日
海上保安庁

日本・米国・韓国連携による『初』の能力向上支援の実施について ～「キャンプデービッドの精神」に基づく実践的取組～

海上保安庁は、本年11月、海上保安庁 MCT (Mobile Cooperation Team) 職員等を韓国に派遣し、米国沿岸警備隊 (USCG) 及び韓国海洋警察庁 (KCG) と連携して ASEAN 及び太平洋島しょ国等の海上保安機関職員に対する能力向上支援を初めて実施しました。

1 背景

- 昨年8月の日米韓首脳会合において発表された共同声明「キャンプデービッドの精神」を踏まえ、日米韓海上保安機関（日米韓 CG）は、本年5月、意向確認書に署名を行いました。これにより、「日米韓 CG は今後、ASEAN 及び太平洋島しょ国に対する能力向上支援 を実施するにあたり、同国々に対する海洋資源の保護、違法・無報告・無規制（IUU）漁業への対策、海上捜索救助（SAR）、海洋環境対応事案及び海上法執行の改善の促進に対する努力の重要性を認識し、協力向上を目的に実務者協議を行う機会を追求する」ことしました。
- 日米韓 CG は、本年6月、相互理解促進のため、捜索救助訓練を初めて実施し、相互の連携・協力体制を強化しており、さらに、今般、「キャンプデービッドの精神」で合意した ASEAN 及び太平洋島しょ国等に対する能力向上支援を初めて実施しました。

2 研修概要

- 実施場所 : 韓国海洋警察庁教育院（※同庁教育訓練機関）
所在地 : 大韓民国 麗水（ヨス）市
参加者 : 日米韓のほか、マレーシア、インドネシア、フィジーなどの海上保安機関等の職員
研修目的 : ASEAN 及び太平洋島しょ国等に対する能力向上支援
研修項目 : 制圧技術（講義、訓練）等

3 研修対応者

- （1）日本 : 海上保安庁
MCT 及び総務部国際戦略官付職員 計2名

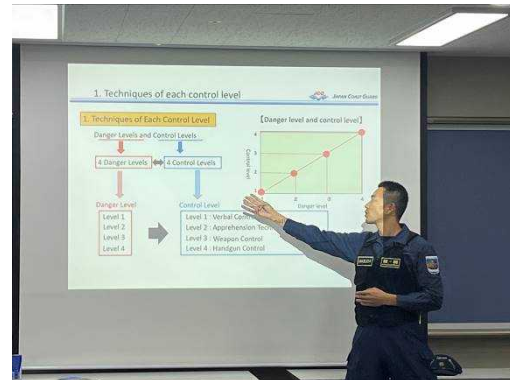
- (2) 米国 : USCG
沿岸警備隊太平洋方面司令部所属職員等 計2名
- (3) 韓国 : KCG
本庁及び同庁教育院職員等

4 結果概要

- 今回の研修では、はじめに講義で当庁の理解度向上を目的とした業務概要説明と制圧手法の基本的な概要説明を行い、次に訓練として、被疑者と対峙したことを想定し、口頭による制圧、掴まれたときの離脱方法、関節技を含む実践的な制圧手法を指導し、もって ASEAN 及び太平洋島しょ国等の能力の向上を図りました。
- また、USCG 職員も捜索救助に関する講義を実施しました。日米韓 CG 間で指導方法の違いや認識を共有するなど、今後の取組に際しても有意義な研修となりました。海上保安庁では、引き続き、「自由で開かれたインド太平洋」の実現に向け、外国海上保安機関との連携・協力の取組を進めてまいります。



<業務概要説明>



<制圧概要説明>



<制圧手法の講義>



<日米韓の研修対応者>